

図1 畑の準備

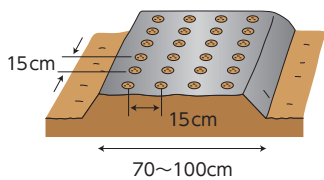


図2 種球の準備

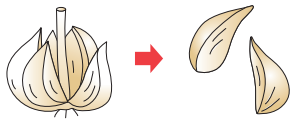


図3 植え付け

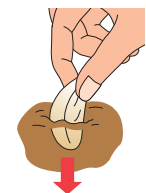


図4 わき芽かき

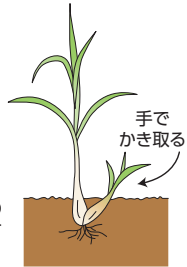


図5 収穫

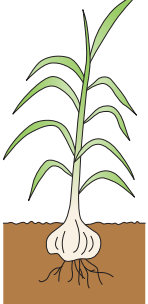
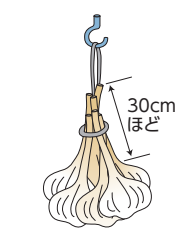


図6 貯蔵



「畑の準備」  
植え付け2週間前までに、1平方m当たり苦土石灰200gを施して土に混ぜておき、1週間前に化成肥料(NPK各成分10%)100gと完熟堆肥2kgを施します。その後、幅70×100cmの畝(ベッド)を作り、穴の間隔が15cm程度の黒マルチフィルムを張ります(図1)。

「収穫」  
初夏になり、葉が半分くらい枯れたら(図5)、晴天日に抜き取って根を切り落とし、畑で2〜3日乾かします。その後、茎を30cmほど残して切り取り、10球程度を束ねて風通しの良い軒先などにつるします(図6)。

「品 種」  
「ニューホワイト六片」、「山東」は寒冷地でも栽培できます。

「種え付け」  
強い香りの成分は硫化アリルで、豊富に含まれるビタミンB1と体内で結合すると疲労回復効果があります。

中央アジア原産と推定されるヒガンバナ科の多年生草本で、生育適温は15〜20度、暑さに弱く、寒さには比較的強い野菜です。秋に種球を植え付け、初夏に収穫します。



## ニンニク 適期に種え付け、追肥と灌水を行う

### 「種え付け」

9月上旬ごろに休眠が明けてくるので、種球を小片(鱗片)にばらし(図2)、9月中旬〜10月上旬に種え付けます。小片頂部を上にしてマルチ穴(15cm間隔)に深さ5cm程度に種えます(図3)。

### 「わき芽かき」

1株から2芽以上出たときは、生育の良い1芽を残して、手で早めにかき取ります(図4)。

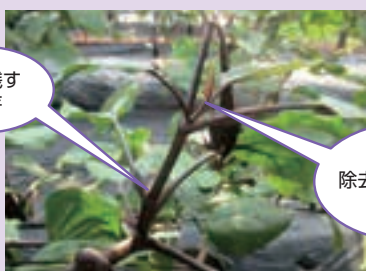
### 「追肥・花蕾摘み」

成長が再開する翌春2月と3月に1平方m当たり化成肥料50g程度を追肥しますが、マルチ栽培では所々穴を開けておきます。とう立ちしてつぼみが付いたら、球の肥大に影響があるため花蕾を早めに取り取ります。畑の乾燥に弱いので、特に春先からの灌水が必要です。

このコーナーで  
なす栽培の面白さを深めていただいた皆さん、  
**なすをJAに出荷してみませんか。**  
詳しくはアグリセンターでお尋ねください。



先端をつまみ取るとなすは「親のかたき!」とばかりに側枝をどんどん伸ばし始めます。こうなればしめたもの、側枝で収量を取ることが大事です。



通常残す脇芽

通常は除去する芽を残し2芽とする

## なす太郎の ポイント指南

### 今月の管理ポイント

まだまだ暑いので、8月同様に十分な灌水をしましょう。また、引き続き収量が多い時期なので、適正な施肥を行います。葉かきも適宜行いましょう。

★先端部の摘芯  
9月中旬に咲いた花を目安として主枝の先端部を摘芯し伸長を止めます。この摘芯は必ず行いたい管理作業です。その後は脇芽で収穫を得るようにします。自分の手の届く範囲の先端で枝先をつまみ取り、誘引ネットなどに固定します。

★9月15日以降を目安に  
2芽残しで管理  
整枝は、9月15日以降を目安に2芽残しとし、終盤の果実数を確保します。

★9月15日以降を目安に  
2芽残しで管理  
整枝は、9月15日以降を目安に2芽残しとし、終盤の果実数を確保します。

